

# 地先海面に育まれた ヒオウギガイ養殖

新庄漁業協同組合

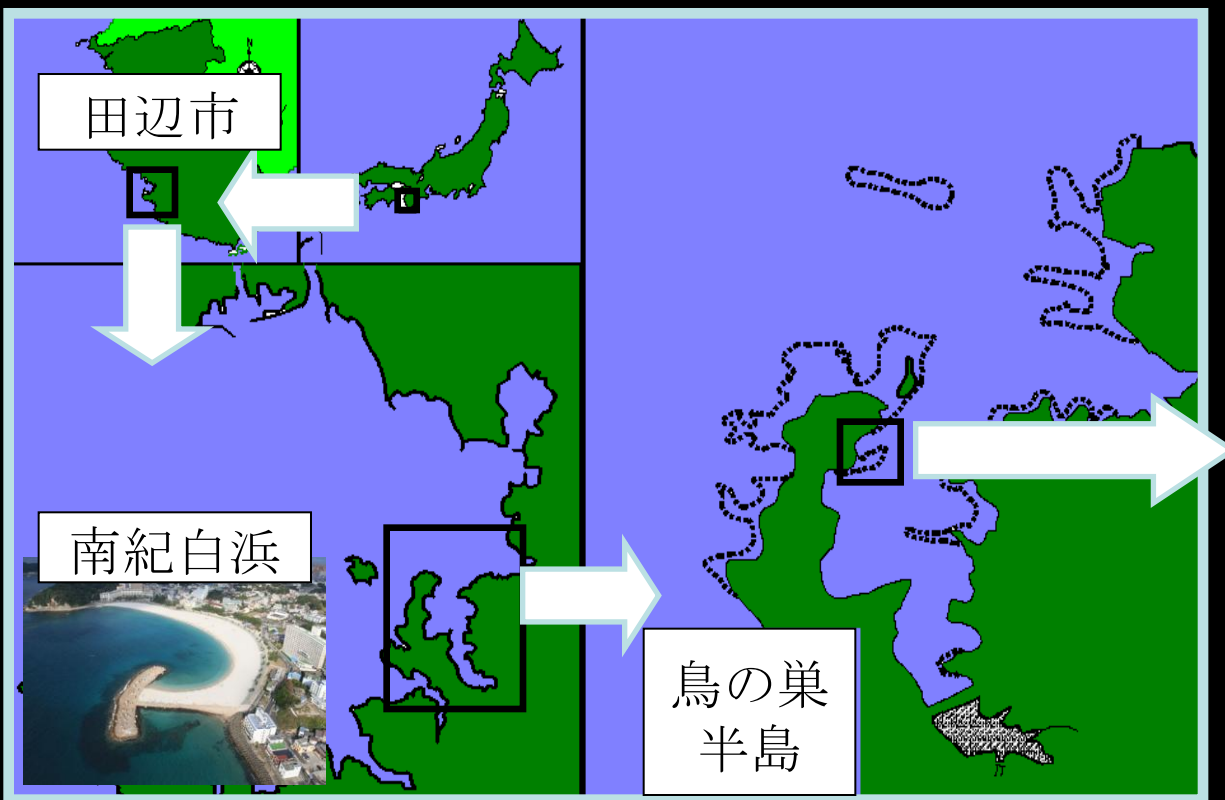
みやはた 宮畑 たいじろう 泰次郎

(和歌山県)

# 新庄漁業協同組合の概況

組合員数：正組合員 67 人、准組合員 301 人

主要漁業：採介藻、一本つり、刺網、養殖 など



# 鳥の巣での養殖対象種



ヒオウギガイ

マガキ

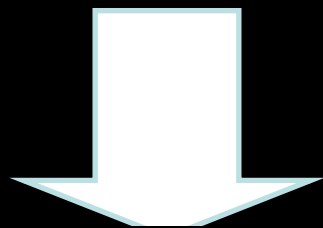
イワガキ

# ヒオウギガイ養殖のきっかけ

古くからマガキ養殖を中心とした自営事業



収益が不安定、新たな事業の柱が必要に



新たにヒオウギガイ養殖に取り組む

# ヒオウギガイ養殖の課題

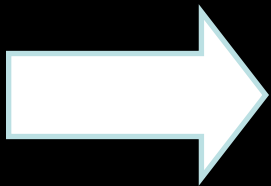
①種苗確保が不安定である

- ・種苗購入費が必要
- ・業者の状況に仕入れが左右

②販売までのロスが大きい

- ・大型個体を生産し出荷をしてきたが、へい死する個体が多い

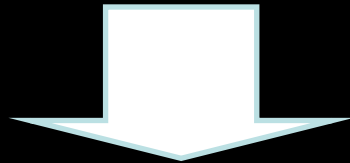
目標「収益を上げるヒオウギガイ養殖」  
に向けて、2つの課題を設定



# 収益を上げるヒオウギガイ養殖

## 課題設定

- ① 「天然採苗による安定供給体制の確立と  
種苗購入費の削減」
- ② 「販売方法の見直しによるロスの削減」



本日は①②についての取組み状況と、  
③平成 23 年度の収支状況  
について発表

## 課題設定

- ① 「天然採苗による安定供給体制の確立と  
種苗購入費の削減」
- ② 「販売方法の見直しによるロスの削減」

# ①天然採苗の流れ（平成20年度～）

5～6月 垂下



生殖腺の観察



垂下養殖開始



9月 取り上げ

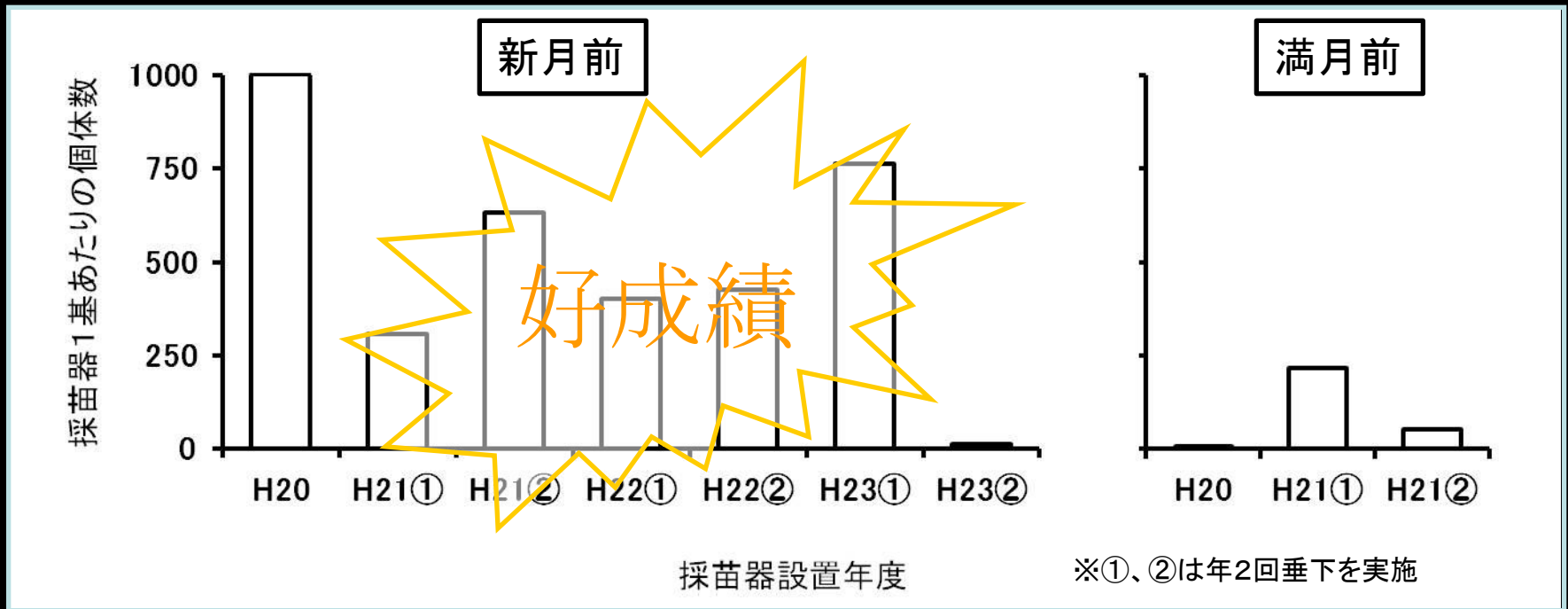


どっさりあら！



# 採苗器垂下及び成績について

垂下のタイミングは、満月前より新月前で好成績  
→投入時期を新月前に集中させる



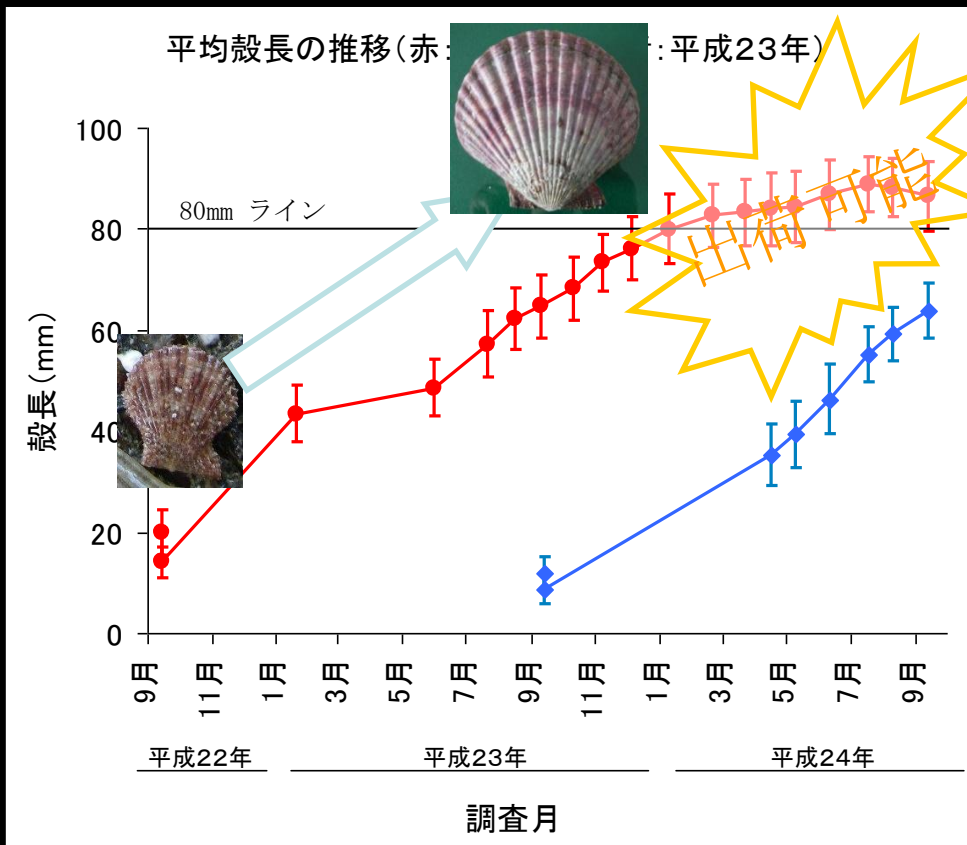
平成21年以降、毎年安定して約8,500個の養殖用種苗を確保

## 課題設定

- ① 「天然採苗による安定供給体制の確立と  
種苗購入費の削減」
- ② 「販売方法の見直しによるロスの削減」

## ②販売方法の見直し

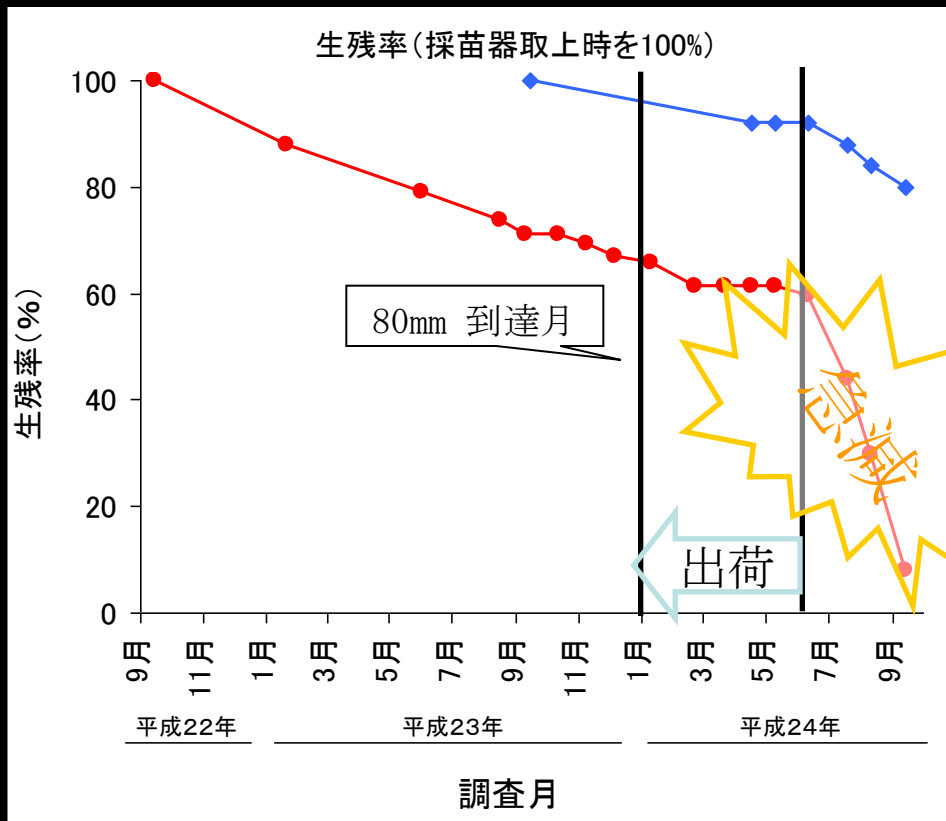
養殖開始後、何ヶ月間で出荷サイズに到達するのか？  
→平成 22、23年産天然採苗個体について、  
毎月1回 殻長及び殻高を計測



- 平成22年産  
養殖開始後約15ヶ月で、  
大半が出荷サイズ(80mm)  
に到達
- 平成23年産  
平成22年度と類似した  
成長率で推移

## ②販売方法の見直し

養殖開始後、生存率はどのように推移するのか？



○平成22年産

- ・出荷開始時の生存率は、約65%
- ・2年目の夏を迎えると、生存率は急減

○平成23年産

- 平成22年産よりも良い成績だが、概ね類似

出荷サイズの個体から順次販売する有効性について、データの裏付け

# 計画出荷の考え方

A年の出荷予定数  
10,000個

1年半後～2年後の  
出荷・販売を見込む

概ね出荷数の2倍  
種苗が必要

荒いのは承知で、H22(赤)の調査結果を採用すれば…

50%

生存率  
出荷サイズ到達率  
変形個体

約20,000個  
の種苗が必要

効率化を推進していくことで、  
さらなる歩留まり向上が期待できる！

# 取り組みのまとめ

- ①種苗確保：天然採苗技術の確立により、  
安定的な種苗確保を実現
- ②販売方法：養殖開始後 15 か月から順次出  
荷できること、販売に必要な種苗数が計算  
できることを掴む

# ③平成23年度 収支状況

平成23年度は、138,280円の利益

今回、少額ですが黒字を計上！

低コスト、低労力で収益をあげられる！

# 今後の展望

無給餌養殖であるヒオウギガイ養殖に大きな可能性を見いだしました。

見通しは明るい！

ご清聴ありがとうございます  
ございました

新庄漁業協同組合  
宮畑 泰次郎